

こ どう 孤道 完結編

金色の眠り

和久井清水・著

文庫: 352ページ

出版社: 講談社

発売日: 2019年3月15日



〈あらすじ〉

鈴木義弘に続き、その部下・松江孝雄までもが死体となって発見された。二人の被害者はなぜ殺されたのか。さらに浅見は義磨の日記で、一人の老人の死を知ることになる——。「牛馬童子」の首が見つかった場所の意味、日記に隠された歴史的な大発見、真犯人の意外な正体とは？ 過去から現代へと繋がる浅見光彦の長い旅は、果たしてどこへ向かうのか。

〈登場人物〉

浅見光彦（あさみ みつひこ）……雑誌「旅と歴史」のライター。名探偵。

鳥羽映佑（とば えいすけ）……大毎新聞田辺通信部記者。三千恵に片思い。

竹内三千恵（たけうち みちえ）……藤白神社の巫女に転職した歴女。

鈴木真代（すずき まよ）……田辺市役所職員。鳥羽にネタを提供する。

鈴木義弘（すずき よしひろ）……真代の夫。八紘昭建社長。死体で発見される。

鈴木義磨（すずき よしまろ）……義弘の祖父。五年前に92歳で亡くなった。

松江孝雄（まつえ たかお）……八紘昭建の社員。

〈著者略歴〉

和久井 清水（わくい きよみ）

1961年北海道生まれ。札幌市在住。1981年北海道武蔵女子短期大学卒業後、地方公務員に。結婚を機に退職。